

日本学術会議学術フォーラム
巨大災害から生命と国土を護る

「東日本大震災合同調査報告」出版 と「合同報告会」の開催

平成28年1月9日

日本地震工学会、日本建築学会、土木学会、地盤工学会、日本機械学会、日本地震学会、日本都市計画学会、日本原子力学会（8学会、順不同）

代表報告 川島一彦

東日本大震災合同調査報告書編集委員会副委員長
元日本地震工学会会長、東京工業大学名誉教授

プロローグ

- 東北地方太平洋沖地震の翌日(2011年3月12日)、日本地震工学会、日本建築学会、土木学会、地盤工学会、日本機械学会の5学会の有志が集まり、意見交換を行った。
- できるだけばらばらにならず、学会間で情報交換し合って震災調査や震災報告会等を実施すべきというのが、その時の合意事項
- その後、日本地震学会も加わった6学会で、東北地方太平洋沖地震被害調査連絡会を設置。第1回を2011年3月25日に開催。
- 6学会連絡会で提案された事業は以下の2点
 - ✓不正確な風評が巻き起こっている海外に対して正確な情報発信をすべきで、このため、早い段階で国際シンポジウムを開催すべき
 - ✓地震被害に関する合同調査報告書を関連学会が協力して作成すべき

東日本大震災国際シンポジウムの開催

- 東日本大震災国際シンポジウム実行部会（6学会）
 - ✓2011年9月に第1回実行部会開催
 - ✓2012年3月3日、4日に、One Year after the 2011 Great East Japan Earthquake – International Symposium on Engineering Lessons Learned from the Giant Earthquakeを建築会館ホール他2会場で開催
 - ✓440名の参加者、約200編の英文論文発表
 - ✓海外16カ国から約100名の参加者＋在日中の海外参加者約40名を加え、海外からの参加者は全体の1/3に達した。
 - ✓タイムリーな国際シンポジウムの開催によって、海外に対する正しい情報発信に大きく貢献

One Year after the 2011
Earthquake – International
Engineering Lessons
Learned from the Giant
Earthquake, March 3-4
Kaikan Hall

One Year after the 2011 Great East Japan Earthquake

- International Symposium on Engineering Lessons
Learned from the Giant Earthquake -

March 1-4, 2012

Kenchiku-kaikan, Tokyo, Japan

Program and Abstract Volume



Organizing Societies

Japan Association for Earthquake Engineering
Architectural Institute of Japan
Japan Society of Civil Engineers
The Japanese Geotechnical Society
The Japan Society of Mechanical Engineers
Seismological Society of Japan

Supporting Organizations

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology / Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism / Ministry of the Environment / Science Council of Japan / WFEO Disaster Risk Management Committee / National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention / National Institute for Land and Infrastructure Management / Public Works Research Institute / Building Research Institute / Port and Airport Research Institute / Central Research Institute of Electric Power Industry

東日本大震災合同調査報告書編集委員会

- 2012年2月に、日本地震工学会、日本建築学会、土木学会、地盤工学会、日本機械学会、日本地震学会、日本都市計画学会、日本原子力学会(順不同)の8学会によって設置
- 和田章委員長の他、1学会から2～3名委員で構成
- 報告書の構成、分担、表紙、体裁、進捗状況の情報共有、合同報告会の計画・開催
- 共通編3編、土木編8編、建築編11編、地盤編2編、機械編1編、都市計画編1編、原子力編1編、総集編1編、計28編
- 震災からおおむね5年を目途に刊行予定。現在までに17編が刊行済みで、復興や計画系の編を中心に報告書の作成を実施中。
- 現在までに17回の合同調査報告書編集委員会を開催

よいお手本があった 報告書

兵庫県南部地震合同誌

- 地盤工学会、土木学会、日本地震学会の5学会(順不同)
- 片山恒雄委員長＋委員10名
- 同一の表紙、体裁を持つ28冊
- 個別の報告書は多数あるがとめられた報告書は他に存在れて、兵庫県南部地震による被害で信頼できる報告書として、広高まってきている

阪神・淡路大震災調査報告

Report on the Hanshin-Awaji Earthquake Disaster

土木構造物の被害

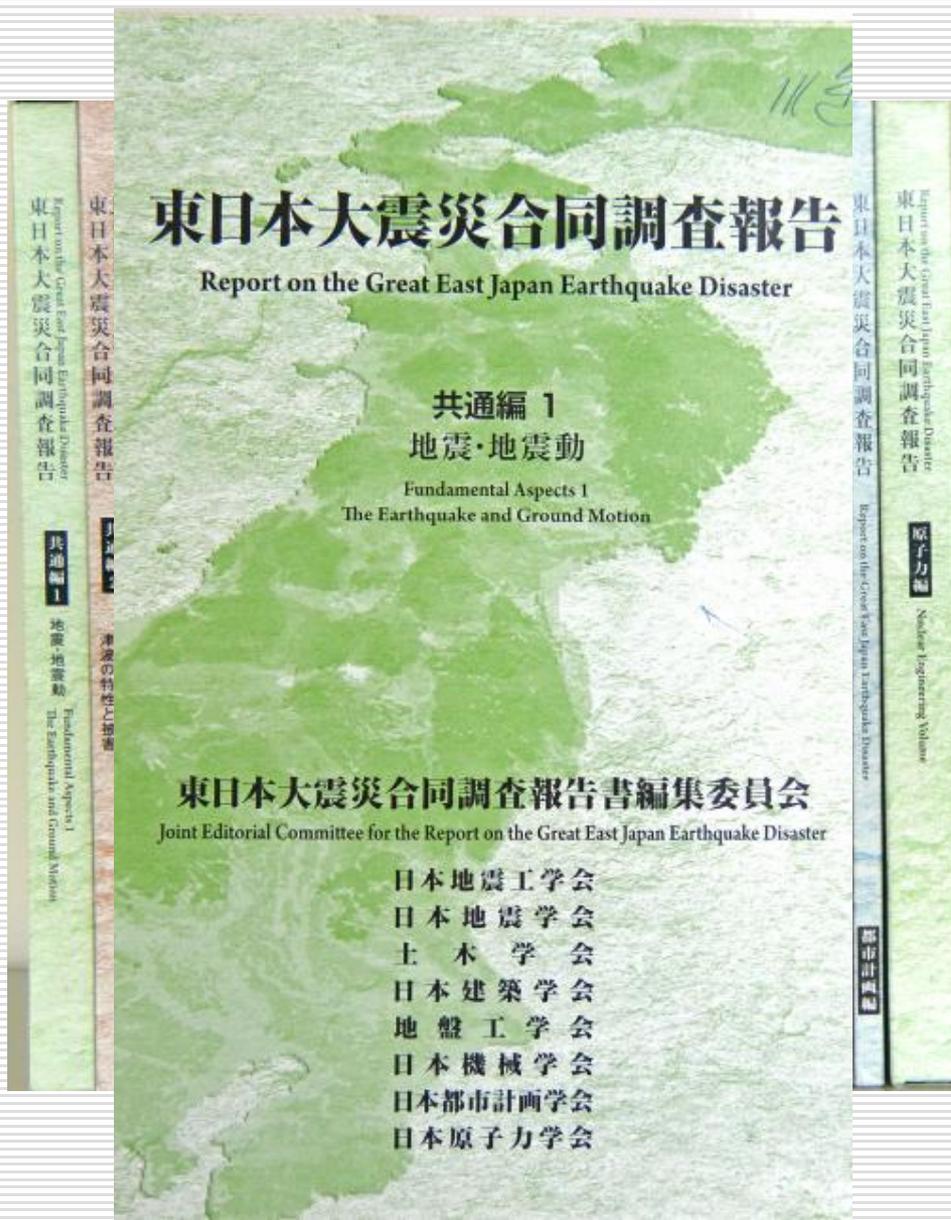
橋 梁

Damage to Civil Engineering Structures
Bridge Structures

阪神・淡路大震災調査報告編集委員会
Editorial Committee for the Report on the Hanshin-Awaji Earthquake Disaster

土 木 学 会
地 盤 工 学 会
日 本 機 械 学 会
日 本 建 築 学 会
日 本 地 震 学 会

東日本大震災合同調査報告書



- CD-ROM主体
- 紙ベースの報告書もいろいろな様式で添付されている
 - ✓50ページ程度の概要
 - ✓報告書の主要部分
 - ✓全ページ(白黒、カラー、……)
- 同一様式の表紙で、カラーは幹事学会ごとに変えている
- 学会名は、当該報告書の作成に貢献した順に記載

8学会主催合同報告会の例1

地震被害再考：ファンダメンタルをふまえて

共通編3編（地震・地震動、津波、地盤災害）の刊行記念
シンポジウム、専売会館ホール、2014年6月13日



8学会主催合同報告会の例2

原子力編刊行記念合同報告会

建築会館ホール、2015年2月13日



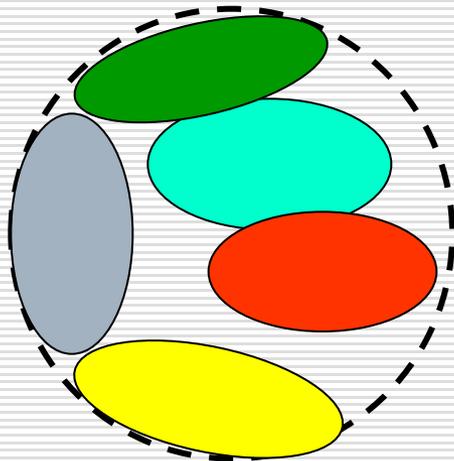
地震が起った後に必ず出てくる議論

- 動きにくいから他の学会との連携などとんでもない！
- 他の学会に遅れたくない、負けたくない！
- どうして関係ない学会と協力しなければならないのか？
- 他の学会にコントロールされるのではないか？
-

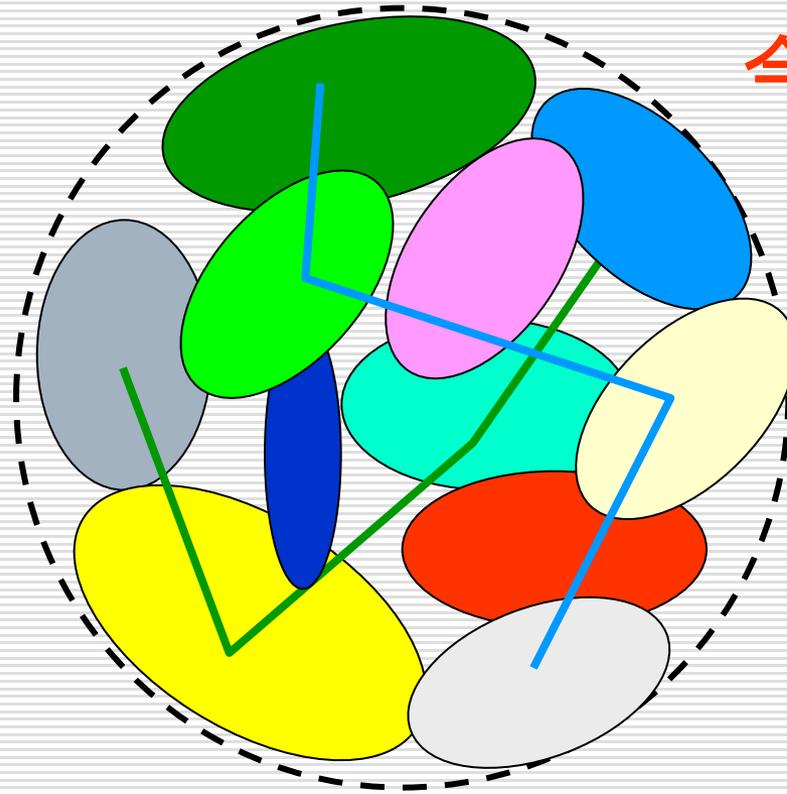
学会連携の必要性・重要性

- 対象領域の拡大
- 関連学会数の増大
- 専門化、分化、高度化、深化

過去～現在



今後



- 問題に応じたフレキシブルで広範な協力・連携が可能な仕組み
- 社会のニーズに応えられる複眼的な視野